



10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[39]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[20]年、階級[消防士長] 同様の活動[初めて]、任務[車長]
○当事者B	年齢[26]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防士] 同様の活動[初めて]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[21]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士] 同様の活動[初めて]、任務[隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	関係者A:軽自動車持主、関係者B:当直責任者、関係者C:当務職員

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B・C	現場到着。傷病者宅まで狭隘であることを確認する。	
経過2	当事者A	救急車から下車し傷病者宅へ向かう。	
経過3	当事者B・C	救急車進入路を話し合い、誘導のもと車両を後退させる。	
経過4	当事者A	傷病者接触し、観察中。	緊急性なしと判断。
経過5	当事者B・C	救急車後退中に駐車中の軽自動車に接触する。	
経過6	当事者B・C及び関係者	居合わせた軽自動車の関係者Aと接触箇所を確認する。	
経過7	当事者B	車両を接触してしまった事を、観察中の当事者Aに報告する。	
経過8	当事者A・B	傷病者観察を交代し当事者Aが接触現場を確認し持主へ説明後、傷病者を車内収容する。	救急活動継続可能と判断する。
経過9	当事者A	関係者Bへ事故の旨を報告する。	医師引継ぎ後
経過10	関係者B・C	消防車両にて事故現場へ向かう。	病院引揚げた救急隊と到着する。
経過11	当事者A・B・C 関係者A・B・C	事故現場を調査し以後の対応について話し合う。	
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 :事故が起きたのはどうしてだと思ふか？

○ヒヤリハットの場合 :ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思ふか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

事故後、署内で事後検証し事故に関する問題点を提示する。実際に車両を使用し車両誘導に潜む危険について検討した。

○装備・資機材の対策について

誘導員は警笛を使用する。

○活動環境の対策について

車両誘導時における基本要領を再確認し、事故防止に関し統一事項を決めた。  
例：誘導員の警笛、誘導時の立ち位置(車両左後方)等の徹底。

○指揮・情報伝達の対策について

# 救急1号車事故状況写真

平成27年12月6日

1. 事故現場全景を北側から撮影する。



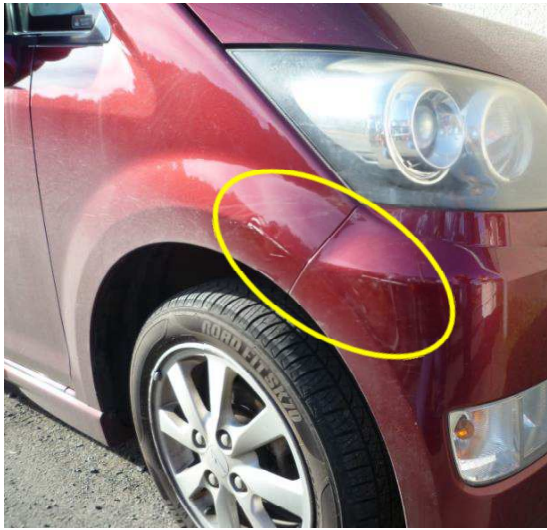
※接触後、軽乗用車の持ち主が西側に移動する。  
尚、写真は移動後である。

2. 北側から撮影する。



黄色矢印方向に救急車をバックで現場直近まで移動中、軽乗  
用車の脇を通過する際、若干右にハンドルをきり救急車のバ  
ンパー左側と軽乗用車の右バンパー及び右フェンダー付近が  
接触する。

軽乗用車運転席側フロントフェンダー付近の接触部分を撮影する。



救急車1号車助手席側バンパー付近の接触部分を撮影する。

